

## はじめに

ニワトリと日本人との関係は、

唐揚げと目玉焼きに尽きるものではありません。

恋人たちの逢瀬の場で、

天下分け目の戦のさなかに、

あるいは、新しい素敵な一日の始まりにあたって、

ニワトリは、忘れがたい点景となっています。

よりどりみどりのニワトリばなしを、

存分にお楽しみ下さい。

目次

1	命を救うニワトリ	(『今昔物語集』卷二十四第二十話)	6
2	卵を盗られたニワトリ	(『今昔物語集』卷九第二十四話)	13
3	夢に現れるニワトリ	(『沙石集』卷第九)	21
4	警察犬より優秀なニワトリ	(小咄)	24
5	闘うニワトリ	(『日本書紀』卷第十四)	27
6	グルメ指南のニワトリ	(『本朝食鑑』禽部之二)	30
7	大喜びのニワトリ	(謡曲『初雪』)	33
8	恋しいあの人とニワトリ①	(『伊勢物語』第十四段)	37
9	恋しいあの人とニワトリ②	(『男色大鑑』卷九)	41
10	ことわざのニワトリ	(口承)	46
11	お調子者のニワトリ	(小咄)	49
12	天下分け目のニワトリ	(『平家物語』卷第十二)	52
13	鳴き真似されるニワトリ	(『枕草子』第百三十段)	56
14	病気を治すニワトリ	(『醒睡笑』卷之二)	62
15	いたずら好きのニワトリ	(落語『へかこ』)	64
16	決めかねるニワトリ	(小咄)	74
17	まちがわれたニワトリ	(『古今著聞集』卷第十二)	77
18	思わせぶりなニワトリ	(『栄花物語』卷第八)	79
19	賢いニワトリ	(小咄)	82
20	飼われるニワトリ	(『農業全書』卷十)	84
	出典一覧		88
	おわりに		90



# 1 命を救うニワトリ

むかし、ある男が、長年連れ添った女房を離別した。理由は分らない。女房は当然のごとく夫を恨み、痛嘆した。そして、悲しみのあまり病床に伏し、数ヶ月のあいだ患<sup>わづ</sup>った後、この世を去った。

女房には、父母も身寄りも無かったので、亡骸<sup>なきがら</sup>は放置された。亡骸は朽ちていったが、その髪は抜け落ちることなく、骨もばらならず、五体の形をそのまま残していた。

隣人たちは、戸の隙間<sup>すきま</sup>から中を覗きこみ、そうした様子を見て、恐れおののいた。更に、その家の中では、正体不明の青い光が明滅してやまなかったので、目にし

た者は恐怖にかられて逃げ惑った。

夫は、この話を聞いて、肝を潰した。

「俺を恨みながら死んでいったあいつのことだから、俺をとり殺そうとするに違いない。

なんとかしなければ……。」

夫は、早速、ある陰陽師へ泣きついた。

すると、陰陽師が言うには、

「ウーム、これは容易ならざる事態じゃ。まったくお手上げというわけではないが、相当の荒療治が必要だ。いいかね、それがどんなに恐ろしいことであっても、わしの言った通りにするんですぞ。よろしいか？」

こう念を押すと、陰陽師は、日没を待って、男を女房の家へ連れて行った。話を聞くだに恐ろしい例の家へ実際に出向くのだから、男のおのきは尋常ではな

かったが、陰陽師を信頼して渋々同道した。

さて、亡骸を見ると、噂の通り、髪は抜け落ちず、骨格もそのままである。

陰陽師は、男を亡骸の背に馬乗りにさせると、死人の髪を男にしつかりと握らせ、

「何があっても、この髪を放してはなりませんぞ」

きつく言い聞かせておいて、自分は呪文を唱え、祈祷を始めた。

やがて、

「わしは一旦、この場を離れる。おまえさん

は、次にわしがここへ来るまで、ずっとこ

うしているのじゃぞ。何があるうと、じっ

と我慢するのじゃ。よいな？」

と言いつ残すと、陰陽師は去って行った。

残された男は生きた心地がしなかったが、仕方が無い。死人の髪を握りしめたまま、ぶるぶる震えていた。



ミニコラム ● にわとりの語

「にわとり」とは、「庭の鳥」のこと。世界各国で古くから飼われてきたが、単に「と」と言えは鶏を意味するところが多い。たとえは、「焼き鳥」は通称、鶏肉の串焼きを指す。

出典一覧

- ◎ 『伊勢物語』…歌物語。平安中期成立。百二十余の短編から成る。
- ◎ 『栄花物語』…歴史物語。十一世紀頃成立。正編三十巻・続編十巻。
- ◎ 『古今著聞集』…説話集。十三世紀半成立。二十巻。
- ◎ 『今昔物語集』…説話集。十二世紀前半の成立か。三十一巻。
- ◎ 『沙石集』…説話集。十三世紀後半成立。十巻。
- ◎ 『醒睡笑』…咄本。十七世紀初頭成立。八巻八冊。
- ◎ 『男色大鑑』…浮世草子。十七世紀末成立。八巻。
- ◎ 『日本書紀』…歴史書。八世紀初頭成立。三十巻。
- ◎ 『農業全書』…農書。十七世紀末成立。十一巻。
- ◎ 『平家物語』…軍記物語。十三世紀には既に原形が成立。通常は十二巻。
- ◎ 『本朝食鑑』…本草書。十七世紀末成立。十二巻十冊。
- ◎ 『枕草子』…随筆集。十一世紀頃の成立か。三巻。

## おわりに

歴史と人生を彩るニワトリばなしの数々、いかがでしたか。「卵が先か、ニワトリが先か」という大論争を追い散らす鶏鳴は、実に魅力的ですよ。

福井栄一の千支シリーズも、本書が11冊目。

十二支（12冊）完結まで、「戌（犬）」の本1冊を残すのみとなりました。

引き続きのご支援、宜しくお願ひします。

平成28年12月吉日

我が家の今宵の献立が焼き鳥でないことを祈りつつ

上方文化評論家 福井栄一 拝



著者紹介

福井 栄一 (ふくい えいいち)

上方文化評論家。四條畷学園大学看護学部  
客員教授。京都ノートルダム女子大学人間文  
化学部 非常勤講師。関西大学社会学部 非常  
勤講師。

大阪府吹田市出身。京都大学法学部卒。京都大学大学院法学研究科修  
了。法学修士。

日本の歴史・文化・芸能に関する講演を国内外の各地で行うほか、通  
算で27冊を超える研究書を出版している。剣道2段。

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~getsuei99/>

卵より先のニワトリばなし

定価はカバーに表示してあります。

2016年12月15日 1版1刷発行 ISBN978-4-7655-4250-0 C0039

著者 福井 栄一  
発行者 長 滋彦  
発行所 技報堂出版株式会社  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2-5  
電 話 営 業 (03) (5217) 0885  
編 集 (03) (5217) 0881  
F A X (03) (5217) 0886  
振替口座 00140-4-10

日本書籍出版協会会員  
自然科学書協会会員  
土木・建築書協会会員

Printed in Japan

<http://gihodobooks.jp/>

©Fukui, Eiichi 2016

装幀：田中邦直 イラスト：川名 京 印刷・製本：愛甲社

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、その  
つど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979,  
e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。